

# 43. dim コードを使う

## ◆ 作りたい曲のイメージ

「気になる響きを曲の途中に入れて、ピンポイントで注目してもらえる曲を作りたい!」という時には、dimコードを使うと良いでしょう。

## ◆ dimコードとは

「dim」はディミニッシュと呼びます。全ての音が均等に短3度離れた音程になっているのが特徴で、ルート+短3度+減5度+減7度という4音構成になっています。例えばCdimなら、下からドミソシ<sup>b</sup>という構成になります(図1参照)。

dimコードは全ての音の間隔が均等なため、ど

の音もルートになることができます(図2参照)。また、単体で聴くとちょっと怖い響きに感じられるかもしれませんがね。そのため、ケンカなどの険悪なシーンやUFO、ホラーな曲などでも大活躍するコードですが、今回はそれとは違って美しく聴かせることを目標にした使い方を紹介しましょう。

図1 dimコードの構造

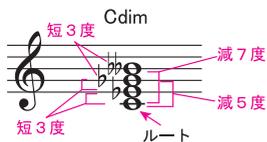


図2

$$Cdim = E^bdim = G^bdim = Adim$$



## ◆ dimコードの効果的な使い方

下の完成譜例を見てください。この曲のコード進行はC-Ddim(onC)-C-E7(onB)-Am-D7-Dm7-G7-F△7-G(onF)-Em7-E<sup>b</sup>dim-Dm7-C(onE)-F-F6(onG)-Fdim(onC)-Cという流れになっています。出だしはC-G7-Cという進行にすることも可能ですが、G7のかわりにDdim(onC)を使いました。これによって、少し切ない響きを作ることができます(図3参照)。

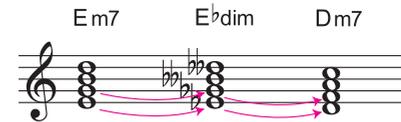
6小節目に用いたE<sup>b</sup>dimは、パッシング・ディミニッシュといわれる手法になっています。これは、ルートが全音で離れたダイアトニック・コードの間にdimコードを入れるという方法です。この曲ではEmとDmの間をE<sup>b</sup>dimが橋渡しする形になっています。パッシング・ディミニッシュを使うと、ベースやコード・トーンが半音でつながる形になるため、美しいコードの流れを作ることができるというわけですね(図4参照)。

図3



Ddimコードは、G7と同じトライ・トーン(3全音)を持つため、G7の代理コードとして使用することができます。

図4



ルートと3度が半音進行することによってスムーズな流れができる。

## 完成譜例

CD TRACK 46

### dimコードを使う

C Ddim(onC) C E7(onB) Am D7 Dm7 G7

F△7 G(onF) Em7 E<sup>b</sup>dim Dm7 C(onE) F6(onG) Fdim(onC) C